

平成19年9月12日

左京区 伝統行事 ネットワーク かわらばん

第4号 発行：左京区役所区民部総務課

左京区役所では、平成18年度から区の独自事業として「左京に息づく伝統文化の保存・継承と観光振興～京都創生～左京から～」に取り組んでいます。今年度は主に次の2つを柱に取組を進めてまいります。

●「左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」の開催

● 伝統行事の映像記録DVDを活用した情報発信の充実

● 「左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」の開催

左京区役所では、昨年度、「左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議」を立ち上げ、伝統行事を保存・継承するに当たっての課題について意見交換を行ってきました。

今年度も引き続き会議を開催し、保存会等の皆様とのネットワークによる相互の連携・協力を推進していきます。（開催予定は以下のとおり）

第6回 平成19年8月9日「伝統行事と観光振興について」

第7回 平成19年10月（予定）「伝統行事と国際交流（仮題）」

第8回 平成20年1月（予定）「伝統行事と地域づくり（仮題）」

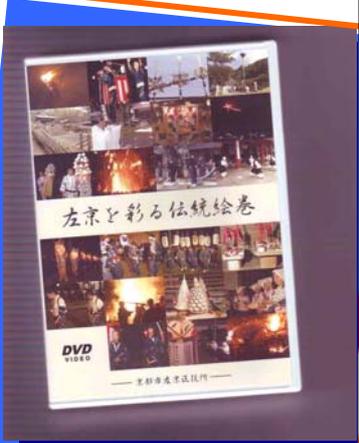
第6回の内容
は裏面へ

● 伝統行事の映像記録DVDを活用した情報発信の充実

左京区役所では、昨年度、伝統行事の保存会の皆様方の御協力の下、伝統行事で培われた貴重な技術や行事のハイライトシーン等を撮影し、映像記録の製作に取り組んできました。

今年度は、この映像記録を活用した情報発信の充実に努め、観光振興を図っていきます。現在、観光振興用DVD「左京を彩る伝統絵巻」の貸出しをしています。ぜひご覧ください。

■主な貸出施設：左京区役所総務課、市役所情報公開コーナー、ひと・まち交流館 京都、ウイングス京都、醍醐中央図書館、京都アスニー、文化財保護課 他



DVD「左京を彩る伝統絵巻」の収録行事（収録順）

●炎に願いを託して～火の行事編～●

（石座火祭、久多花笠踊、久多宮の町松上げ、鞍馬火祭、大文字送り火、花脊松上げ、広河原松上げ、松ヶ崎妙法送り火、八瀬赦免地踊り）

●さとにゆかしき伝承の踊り～踊り編～●

（一乗寺鉄扇、市原ハモハ踊・鉄扇、大原八朔踊、上高野念仏供養踊、修学院題目踊・紅葉音頭、鉄仙流白川踊、広河原ヤッサ踊・ヤッサコサイ、松ヶ崎題目踊・さし踊）

●守る作法 祈るころ～儀式等編～●

（一乗寺八大神社の剣鋒差し、大原上野町おこない・お弓、北白川高盛御供、木野愛宕神社烏帽子着、久多山の神・お弓、鞍馬山竹伐り会式）

第6回 ネットワーク 会議の様子

日時：平成19年8月9日（木）午後2時～4時

場所：左京区役所 第3会議室

参加：14団体20名（一乗寺八大神社剣鉾保存会、一乗寺郷土芸能保存会、市原ハモハニ講中、石座神社奉賛会、大原伝統文化を守る会、上高野念仏供養踊保存会、久多花笠踊保存会、久多山の神・お弓保存会、鞍馬火祭保存会、大文字保存会、松ヶ崎妙法保存会、松ヶ崎題目踊・さし踊保存会、八瀬郷土文化保存会、吉田剣鉾保存会）

講演「伝統行事と観光振興」

同志社女子大学 現代社会学部 教授 山上 徹さん



- 平成18年の京都市の観光客数は4千8百万人を超え、6年連続で過去最高を更新しており、観光客5千万人構想の達成も視野に入ってきた。
- 京都観光の強みは、歴史と伝統、豊富な文化財、多くの保存会、山紫水明の自然環境、伝統的町並み、常に新しいことを取り入れる精神である。
- 一方、京都観光の弱みは、観光客の時期的・場所的集中（秋の行楽シーズン・定番の観光地）、交通渋滞の問題、夜の観光に魅力がない、などである。
- 全国のどこの伝統行事の保存会でも、深刻な後継者不足、運営資金不足や資材不足、伝統芸能を見せる場所がないなど、数多くの課題を抱えている。
- 観光客に来てもらうためには、より多くの人が来られる休日に行事を開催したり、観客用の場所の確保、感動的な要素を取り入れるなど、見る人の目線から伝統行事を改善していく必要がある。
- 伝統行事には宗教的な要素を持つものも多く、一概に観光客向けに変更できない部分もあるが、柔軟な姿勢でメリットとデメリットのバランスをとりながら改善を図れるかがポイントになる。
- 伝統行事の保存会同士の情報交換だけでなく、他の行事や観光地、さらにはNPO組織・ボランティア組織等とも広く連携していくことで新たな発想が生まれ、観光振興が図られると思われる。
- 京都の観光客数は増加傾向にあり、これによるデメリットもあるだろうが、基本的には観光客が来ることにより伝統文化が磨かれ、伝統行事が活性化していくものと考えている。

質疑応答、意見交換・情報交換

【大文字保存会】伝統行事と観光振興は別のものであると思う。産業界は送り火を観光振興として捉えているが、我々は自分の先祖がやってきたことを素直に受け継いでいるだけであり、行事の主権者としては、先祖や友人を思いながら送り火に手を合わせている人の姿にやりがいを感じる。

【松ヶ崎保存会】我々の保存会でも、送り火を観光振興のためではなく、先祖から受け継いできた行事として行っており、今後も昔からのやり方を変えることなく保存・継承していきたい。しかし、若い世代の後継者が減っており、題目踊の振付けや音頭などは少しずつ変わってしまっている。

【八瀬郷土文化保存会】去年くらいから行事を宣伝するポスターの掲示や、八瀬に来た宿泊客に地域の案内をするなどの新しい取組を始めた。今年はさらに広くやっていきたいと考えている。

【鞍馬火祭保存会】多くの観光客が狭い場所に集まるので、事故防止のために規制を行っている。そのため、勇壮な祭りが消極的になっている。なるべく多くの人に行事を見せるために映写機で実況中継をしているが、迫力不足に苦慮している。

【山上教授】伝統行事の保存・継承には人の存在が不可欠である。京都は学生や修学旅行生も多く、若い人に行事の準備を手伝ってもらうなど、参画型の方策により伝統行事の保存・継承と観光振興を図ってほしい。

